



◎活動状況

- ・ [出前講座「日本の食料自給率について」開催](#)
- ・ [田んぼの生きもの調査実施](#)
- ・ [第14回「新舞子ふれあいの森」森林整備開催](#)
- ・ [平成20年度第1回食品表示研修会開催](#)
- ・ [田んぼの学校 生きもの調査、草取り、かかし立て](#)
- ・ [「食の楽校」郷土料理体験](#)

◎トピックス

- ・ [「第19回緑の少年団全国大会」開催](#)

活動状況

○出前講座「日本の食料自給率について」を開催しました

7月1日（火）に、「食の楽校」の一環として渡辺小学校の5年生23名を、また、7月10日（木）には、食農応援メニューの一つとして川部小学校の5年生21名をそれぞれ対象とした出前講座を開催しました。

プロジェクターを使って、それぞれの食材が日本でどのくらい生産されているかや、もしも国内産のみで必要な熱量（カロリー）を供給しようとした場合の食事メニュー、一般家庭での食べ残しの量などについて説明した後、ワークシートで振り返りを行うとともに、感想も書いてもらいました。



渡辺小学校での出前講座状況

『外国で作られているほうが多いなんて初めて知りました』『家族にも話してごはんなどを残さないように心がけていきたい』などの感想が寄せられました。今回の出前講座が児童のみならず各家庭の日々の食生活を見直すきっかけとなってくれればと思います。

○田んぼの生きもの調査を実施しました

7月3日（木）、久之浜第二小学校の5、6年生児童とともに、久之浜第二小学校周辺の農業用水路において、田んぼの生きもの調査を実施しました。この活動は、「県うつくしま田んぼの体験学習支援事業」の一環として行われるものです。また、今年度の活動は、農林水産省と環境省が連携して実施する「田んぼの生きもの調査2008」に調査結果を報告するものとして、本格的な調査が行われました。

調査内容は、まず環境調査として水路の流速、水温、水深、堆積物・植生の有無のほか、試薬を用いた水質調査も行いました。その後、水路内の生きもの、主に魚やカエルを捕まえ、その数や種類を調査しました。児童は水辺の生きものの扱いに戸惑いながらも、網を使って生きものを捕まえるという、普段あまり経験することがない活動を心から楽しみ、自分たちの住む地域の自然の豊かさを実感していました。



環境調査の様子

○第14回「新舞子ふれあいの森」森林整備が開催されました

いわき青年林業会議所の主催による「新舞子ふれあいの森」の森林整備活動が、7月6日(日)、新舞子海岸の「新舞子ふれあいの森」で行われました。当日は強い日差しが照りつける暑い日ではありましたが、ボランティアなど約50名が参加し、約1haの松林で森林整備(下草刈り、ゴミ拾い)が行なわれました。

この松林は、江戸時代にクロマツを植栽したことが始まりで、これまで大切に守り継がれて現在に至っており、海岸から内陸にかけて位置する農耕地や、集落の人命と財産を保全しています。会議所による森林整備は、この松林の大切さを学び守っていきこうと毎年実施しており、今年で14年目を迎えました。



下刈り鎌など準備万端、軽やかに作業開始

当日は、刈払い機の班と下刈り鎌の班に分かれ、それぞれが担当した区域内でクロマツの成長を妨げている下草を刈り取るとともに、林内の至る所に散乱しているゴミを、一つ一つ拾いました。

なお、同会議所の活動は、森林病虫害防除事業の優良事例として、全日本森林病虫害防除協会から大きな評価を受け、平成20年度に奨励賞を受賞しました。

先人から受け継いだ松林を守っていくための活動が、これからも活発に行われていくことを期待しています。

○平成20年度第1回食品表示研修会が開催されました

7月10日(木)、県いわき合同庁舎で平成20年度第1回食品表示研修会が開催されました。

この研修会は、JAS法及び食品衛生法に基づく食品表示に関する理解の促進を図るため、基本的な食品表示のルールや最近の制度改正等の周知を目的として、県内3か所で農林水産部と保健福祉部の合同により開催され、浜通り地方ではいわき市が会場となりました。

食品販売・製造・加工業者、消費者等、約120名が参加し、県農産物安全課職員がJAS法に基づく食品表示について、本年4月からは業者間の取引においても名称、原材料名等の表示が義務付けられたことなどを、県食品生活衛生課職員が食品衛生法に基づく食品表示について、本年6月からアレルギー物質を含む食品として、「えび」と「かに」の表示が義務付けられたことなどを説明しました。

この他に、参加者は加工食品のレシピから食品表示のラベルを実際に作成する演習問題にも取り組みました。

研修会終了後には、食品表示について個別に質問する人が相次ぎ、出席者の食品表示についての関心の高さが伺えました。

○田んぼの学校 生きもの調査、草取り、かかし立てを行いました

現在、夏井小学校では、5年生の児童が1年間を通して農家の仕事を体験する「田んぼの学校」活動が行われています。7月10日（木）、学習田として使用している田んぼの生きもの調査、それと合わせて田んぼの草取りを行いました。



田車の体験

今回行った生きもの調査は、児童が田んぼの土壌の一部を採取し、そこから何匹のイトミミズが捕れたかを数えることによって、田んぼ一枚におよそどれほどのイトミミズがいるのかを予想するというものです。児童は、小さなイトミミズを見逃すまいと、顔を寄せあって真剣に観察用トレーを見つめていました。

田んぼの草取りでは、田植えからおよそ2ヶ月が経過し、田んぼの中で大きく伸びた草を取りました。また、作業に先立ち、伝統的な草取り用農具である田車（たぐるま）の体験も行われ、児童は初めての体験に好奇心を持ち、楽しみながら作業をしていた様子でした。さらに今回は、草取りに加えて、前回活動で児童が作った4体のかかしを田んぼに立てる作業も行いました。

次回活動は9月24日に実施される予定で、いよいよ稲刈りが行われます。

○「食の楽校」郷土料理体験を行いました

7月11日（金）、いわき市立渡辺小学校の6年生18名とともに、ジャガイモを使った郷土料理体験を行いました。使用したジャガイモは、地元の方に協力いただきながら、今年3月12日に植え付けを行い、7月2日に収穫したばかりの新ジャガです。

講師となって郷土料理の調理方法を教えてくれたのは、いわき地区生活研究グループ連絡協議会のメンバーであり、地元渡辺町の農家の遠藤みどりさんと遠藤美喜子さんのお二人です。

児童たちはお二人に教わりながら、いわき地方に伝わる郷土料理の『新じゃがみそ炒め』や、北海道の郷土料理でおやつに最適の『いももち』などを調理しました。また、渡辺町に伝わる『ずいきの酢炒り』や夏にぴったりの『しそジュースのゼリー』の作り方も教わりました。

児童たちは出来上がった料理を、栽培や調理でお世話になった地元の方や保護者の方とともに味わいました。また、全校児童と他の先生方にも、6年生の児童が作った『じゃがバター』がふるまわれました。

トピックス

○「第19回緑の少年団全国大会」が開催されました

7月30日（水）から8月1日（金）までの3日間、全国47都道府県の緑の少年団員1,850名が福島県に集い、「第19回緑の少年団全国大会」が開催されました。

まず、郡山市のユラックス熱海で開会式・記念式典が行われた後、各少年団は、中、浜、会津の各3方部に分かれ、それぞれ交流体験活動を行いました。

いわき地区では、森林と海のつながりをテーマとして、94名の少年団員が、いわき海浜自然の家を宿泊拠点に、いわき市アンモナイトセンターでの化石発掘体験、新舞子海岸の松林観察、県立いわき公園での自然観察会を行い、最後にアクア



自然観察会（いわき公園）

マリンふくしまの見学を行いました。

交流活動終了後、参加した子供達からは、「沢山友達が出来た」、「福島県は自然が豊かだった」、「水族館が楽しかった」、「帰ったらエコを実行する」、「花や木を植えたい」といった感想が多く寄せられ、本大会を開催した目的は十分達成されたように思えました。大会期間中は農林事務所の職員が終日子供達に同行して活動のサポートを行いました。少しでも子供達の楽しい思い出づくりの手助けになったのであれば幸いです。

◀ もどる

すすむ ▶

[[▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#)]